

## コープ九州PB「九州産豚汁用野菜ミックス200g」における 原料産地偽装問題についてのお詫びとご報告

日頃より、生協の商品をご利用いただきまして誠にありがとうございます。標記の件、キャセイ食品(株)による原料産地偽装を受けて、コープ九州PB商品である、「九州産豚汁用野菜ミックス200g」においても、原料の一部に中国産のさといもが使用された可能性があるということで、この間調査を進めているところでございますが、組合員のみなさまにご心配とご迷惑をおかけしていることについて、深くお詫び申し上げます。

また、問題特定の証拠となる帳票類が、確認できない状況が続いており、事実の確認に極めて長い時間を要しておりますことについて、重ねてお詫び申し上げます。

今後は、現在取り組み中の、品質保証システム構築課題の中で、着実に再発防止対策を進めてまいります。

### 1. 対象商品

コープ九州PB商品

「九州産豚汁用野菜ミックス200g」

(使用原料) さといも、大根、人参、ごぼう、しいたけ



### 2. 問題となっている原料

さといも

※ 原料入荷ルート二つのうち、一方について、産地が偽装されたさといもが含まれていた可能性が高い。

### 3. この間の経緯（報道および農水省の発表より）

- ① 08年11月9日朝日新聞報道で中国産の冷凍野菜を国産と偽って販売。生活協同組合や学校給食向けの製品に使用。11月14日、農林水産省よりJAS法に基づく改善指示が出される。09年1月20日長崎県警が、不正競争防止法違反でキャセイ食品(株)の社長他3名を逮捕。
- ② キャセイ食品(株)は、長崎工場において自ら加工した国産原料に自ら仕入れた中国産の野菜冷凍食品(さといも、にんじん、ブロッコリー、キヌサヤ、小松菜、インゲン、グリーンアスパラ、カリフラワー、オクラおよび大根葉計10品目)及びアメリカ産の野菜冷凍食品(グリーンピース)を混入させ、新たに野菜冷凍食品を製造していた。
- ③ キャセイ食品(株)は、前述の野菜冷凍食品を少なくとも08年1月から10月14日までの間販売していた。

- ④ 08年1月から08年10月14日までの期間中約698トンを生産販売し、うち外国産原料を約348トン（概ね50%）混入させた。（農林水産省発表より）

#### 4. コープ九州の対応（問題発覚後）

- ① 「九州産豚汁用野菜ミックス」の製造元であるキャセイ食品(株)より、10月28日工場長名で、農政局の立ち入り調査があり、調査結果がでるまで工場の生産を中止し、出荷を控えるとの案内文書がFAXにて届き、関連する商品の取り扱い中止について会員生協を通じ組合員に案内するとともに調査に入りました。
- ② 使用されていた原料の中、さといもの仕入れ先に問題となっている仕入れ先が含まれていました。
- ③ 目視による現品の確認では、中国産の特徴が認められませんでした。
- ④ 「九州産豚汁用野菜ミックス」については、さといもの仕入れルートが二つあり、一方について産地偽装の疑いがあり詳細の情報入手に努めておりましたが、該当商品については、帳票類が関係機関に押収されている為、仕入実態の特定ができない状態が続いています。
- ⑤ 他のコープ九州PB商品についても、原料原産国の確認をはじめとした緊急の再点検を行いました。

#### 5. キャセイ食品への工場点検状況（問題発覚以前）

- ① コープ九州では、PB商品について、年1回工場点検を実施するようにしており、「九州産豚汁用野菜ミックス」の過去の点検結果は以下のとおりです。

点検日	商品名	点検区分	点検結果	点検者
2002年12月4日	Q九州産豚汁用野菜ミックス	製造実態点検	産地証明不備、トレーサビリティ不確立の為、仕組み作り要請。後再度点検	コープ九州・(株)ニチロ
2005年4月26日	Q九州産豚汁用野菜ミックス	定期工場点検	中軽微の不一致点あり。是正措置	コープ九州・(株)ニチロ
2006年4月26日	Q九州産豚汁用野菜ミックス	定期工場点検	仕様書通りで全て一致していた。	コープ九州・(株)ニチロ
2007年3月19日	Q九州産豚汁用野菜ミックス	定期工場点検	仕様書通りで全て一致していた。	コープ九州・(株)ニチロ
2008年1月17日	Q九州産豚汁用野菜ミックス	定期工場点検	原材料調査票の変更。配合比(しいたけ)の変更。	コープ九州・(株)ニチロ

\* 点検内容は、i. 商品仕様書に基づき、表示・仕様書・製造実態が一致しているか点検。ii. 製造工場施設自体の点検。iii. 製造工程の点検。iv. 作業着・作業着の点検。v. 洗浄・消毒の点検。vi. 保管施設の点検。です。

\* 原料確認については、仕入伝票及び肥培管理表にて確認していましたが、過去の工場点検では、点検結果にありますように、02年に産地証明不備、トレーサビリティ不確立があったため仕組み作りを要請し、その後再度点検を行いました。その後は、産地偽装等も含め問題ないと判断していましたが、

- ② 帳合先、(株)マルハニチロ食品は、チャート管理表に基づき管理しており、08年度には、6回キャセイ食品(株)を訪問と内3回は点検を実施し、問題ない事を確認していましたが、あわせて、社会的に多発する原料偽装問題を受けて、今後の品質保証体系についての打合せを行っていました。

## 6. 今後の品質管理強化に向けて

今回、帳合先の㈱マルハニチロ食品とコープ九州で上記の原材料の点検を実施していましたが、原材料の偽装を見つけることができていませんでした。

COOP 牛肉コロッケの原料偽装事件、COOP 手作り餃子問題を教訓に九州・沖縄の生協の品質管理責任者が協同で進めているコープ九州共通の品質保証システム構築は、ISO22000 の考え方をベースに、意図的なものの発見・防止の視点を加えて、「故意」の違反も対象にしています。

「故意」の違反は、サンプリングでは、全体の状態を検証できないために、リスク低減の対策も容易ではありませんが、プロセス管理を強化する中で一歩ずつ改善を進め、安心のレベルアップを図っていきたいと考えています。

### □特定原材料使用商品の点検の進め方については以下のように補強していきます

- ① 特定原材料使用の場合は、取引先による原料仕入先等の点検、管理の強化を要請し、取引先の管理状況についてコープ九州が確認しています。これまでは、サンプル的に伝票点検や、産地証明書の点検を行ってきましたが、連続性を持った記録帳票の完備、可能などころから記録の電子化を要請します。このことにより、製造プロセスが客観的に把握できるようになりますので、不正が行われにくくなることに合わせ、点検時での検証を容易にします。
- ② 特定原材料を使用する場合は、点検、管理について取り決め事項を明記した契約書を締結していますが、確約事項の妥当性の確認を強化し、原料の調達ルート、調達可能量、不測の事態の備え、また不測の事態の発生時にどのような対応をするかについても確認をするなかで、不正が起きる原因の排除（努力しても原料が不足する事態になった時にどうするかをあらかじめ取引先とルール化しておく）に努めていきます。
- ③ 原料の仕入れルート、原料規格書、荷姿形態、表示、発注書、納品書、加工製造記録、歩留まり率、原料仕入れと製品出荷総量確認についても連続性を持った記録帳票の完備、可能などころから記録の電子化を要請し、客観性を高めることで不正が行われにくくするとともに、点検の際の検証が容易且つ迅速にできる状態をつくっていきます。
- ④ これまでは、契約内容の履行ということ、取引先による管理を前提としていたところもありましたが、年間取り扱い計画を立て、それに基づく原料の調達を進め、取引先から定期的な製品在庫報告を受け、在庫状況に応じた企画展開を進めることで、原料ベースでもお互いが確認しながら進められるようにしていきます。
- ⑤ これまで原料の産地や品種などを特定した商品については、工場点検の優先順位を高めてきていましたが、さらに収穫時期に合せた点検を行うことにより、調達可能量が原料ベースできちんと確保できているか把握できるようにしていきます。

□ 故意の違反を起こさない手立てとして、「信頼」の関係性づくり、パートナーシップの醸成は大変有効とされていますが時間を要します。一方、体系的に整理

された、食品安全マネジメントシステム（ISO 22000）はツールとしては優れていますが、記録（情報）を改竄されれば一気に有効性が減退します。コープ九州ではこの二つの組み合わせにより、安定して機能するシステムの構築を目指しているところです。

この間、取引先と品質保証システム構築を進めるなかで、「原料仕入先に対して上記のようなことを求めることは、信頼関係を壊すことにつながるのではないか」「良い原材料の仕入れ先はプライドを持たれており、疑うようなまねをすることで納品してくれなくなるのではないか」といった不安を持たれる取引先も出てきています。

直接の取引先に対してはもちろんのこと、取引先の原料仕入先にも丁寧に主旨を説明しご理解いただき、品質保証システム構築を進めてまいります。

## 7. 今後の対応

時間を要して誠に申し訳ありませんが、キャセイ食品㈱へ押収されている帳票の返却がありましたらコープ九州としての調査を再開し、事実関係を特定した上で、あらためて組合員のみなさまへご報告させていただく予定です。

以上